

流水型ダムで環境は守れるか？

－川辺川の水質は悪化し、鮎はいなくなる－

八代在住 南 由穂美

流水型ダム 完成イメージ公開

2025年度完成を目指す

提供 川辺川砂防事務所

川辺川の流水型ダム建設のイメージ。ダムは、山に流水を貯え、水を貯える。

建設予定地は、山に流水を貯える。

巨大構造物（長さ264m、高さ107.5m）ができることの問題点

- 1 河川が上下流に分断され、動植物・魚類（鮎）の生活環境が一変する
- 2 洪水時の濁りにより、八代海の潟化が進み、魚類やアサリが死滅・減少する
- 3 清流が失われる
- 4 洪水もしくは試験湛水により、湛水域やつづらせ洞窟の動植物が死滅・減少する
- 5 自然な谷あいの風景が損なわれる
- 6 洪水後の流木や流出土砂・濁りで、景観が損なわれる

国土交通省及び熊本県の環境影響評価の問題点

- 1 「環境への影響を最小限にとどめる」を繰り返すが、具体的な対策は何一つない
- 2 評価の対象区域を球磨村渡までとし、八代海への影響には、全く触れない
- 3 流水型ダムの水質への影響として、既設の流水型ダムの経験に触れようとし
ない
(完成していない足羽川ダムではなく、益田川ダムや最上小国川ダムの例)
- 4 立野ダムで起こっていることを紹介しようとし
ない
- 5 公聴会のあり方について、極めて消極的

八代海で魚類が減少した原因

球磨川からの泥により藻場の海藻が減少し、魚類の餌が減少した

藻場は魚類の産卵場所でもあり、藻場が減ったことで繁殖が困難となった

アサリが減少した原因

海域が濁化したことでアサリが呼吸できなくなったこと

「チヌやエイがアサリを食べた」との記事もあるがチヌやエイは、以前からも居り大増殖している訳でもないので、環境の変化（海域の濁化）が原因である

球磨川の瀬戸石ダムと市房ダムからの泥分が海域の濁化を引き起こし、そのことが魚類やアサリの減少を招いた

川辺川流水ダムによる濁りの流出が八代海の環境を悪化させる



益田川ダム

益田川ダム（2007年竣工）で起きた問題

- 1 アユなどが減少した
- 2 洪水後の濁りの発生が見られる
- 3 流木などによる環境及び景観への影響



最上小国川ダム

最上小国川ダム（2019年竣工）で起きている問題

- 1 アユなどに対する影響
- 2 洪水後の濁りの発生
- 3 流木などによる環境及び景観への影響



立野ダム

立野ダム（2022年竣工）で起きている問題

- 1 流木などによる環境及び景観への影響
- 2 洪水後の濁りの発生
- 3 周辺部（柱状節理など）の崩落

つづらせ洞窟入り口



洪水時や試験湛水時に水没するので貴重な動植物の死滅が危惧される

川辺川の環境を守るための提案

- 1 流水型ダム計画を撤回する
- 2 森林保全のための林業形態（自伐型林業）と保水力増加を評価する
- 3 八代海環境とダム（瀬戸石ダム及び市房ダム）の影響について調査する
- 4 河川を掘削するなど、他の治水対策を検討対象から外さない
- 5 広く住民に説明会及び討論会を開く